令和８年４月１日

令和８年度古賀市立花見小学校
学校経営要綱

【学校経営経営要綱の内容】

Ⅰ　学校経営の基本構想
　1　本校経営の基盤
　2　学校の教育目標
　3　具体目標
　4　本校教育の課題
Ⅱ　令和8年度の重点目標及び経営の重点
　1　本年度の重点目標
　2　重点教育目標達成のための経営の重点
　3　経営の具体的方策
Ⅲ　重点目標達成のための組織運営、研修、家庭・地域との連携
Ⅳ　学校経営重点構想図

令和８年度　古賀市立花見小学校　学校経営要綱

Ⅰ　学校経営の基本構想

１　本校経営の基盤

（1）公教育の立場に立つ学校

・日本国憲法、教育基本法及び学校教育法の理念に基づき、学習指導要領に準拠した教育課程、福岡県教育施策・古賀市教育施策・学校管理規則に則る学校教育を行う。

（2）現代社会の要請に応える学校

・社会の変化に自ら対応できる心豊かな人間の育成を目指して教育を行う。

・人権尊重の精神の涵養、基礎・基本的内容の定着、一人一人の個性やよさを生かす教育を行う。

（3）地域や児童の実態を生かす学校

・本校教育の実績・伝統を尊重し、人権・同和教育を基盤とした新たな校風づくりを行う。

・地域のよさを生かした学習を重視すると共に、学校・家庭・地域が連携した協働教育を行う。

２　学校の教育目標

「地域を愛し、主体的・協働的に学び、心豊かでたくましい子どもの育成」

【学校の教育目標に対する校長の見解】

○「地域を愛し」とは、自分が育ったふるさと古賀の「ひと（自分・家族・友達・先生・地域）・こと（学校行事・地域行事）・もの（校舎・校庭・地域環境）」に尊敬と愛着を感じ、古賀の児童であることに誇りと自信をもち、自尊感情が高まった子どものことである。

○「主体的・協働的に学ぶ子ども」とは、自分の意志や判断に基づき、意欲をもって子ども同士が学び合い、高め合いながら、課題について多面的・多角的に考える子どものことである。

○「心豊かでたくましい子ども」とは、他者とかかわり合い、物事に対してしなやかで、折れない心（レジリエンス）を身に付けた子どものことである。

これからの社会は、グローバル化の進展や人工知能（AI）の急速な進化、今般のパンデミックなど急激に変化し、予測困難な未来を切り拓く柔軟な発想や豊かな感性をもってよりよい世界の創造に主体的、積極的に取り組んでいく人材が求められる。そのような人材を育むために、多様で複雑な社会において直面する心理的・感情的・身体的・社会的なストレスや逆境をしなやかに乗り越え、心と体のバランスを取り戻す力の向上を目指す必要がある。その基盤となるのは、自尊感情である。地域のひと・もの・こととのかかわりをとおして、自分が大切にされている、という実感と、自分にできることで役に立ちたい、という地域への愛着を抱くことで、アイデンティティ（他者や社会の中での自分らしさ）を確立していくことができると考える。

また、令和３年に中央教育審議会で示された「全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現」や学習指導要領に示された「主体的・対話的で深い学び」では、主体的かつ協働的に学ぶことを目指している。これは、本校が主題研をとおして『すべての子が「わかる」「できる」を実感する』ことができるようにするために、日常的に子どもの主体性を育む教育や協働学習について積み上げてきたところである。このように、これからの教育の在り方や取組の成果を踏まえ、本校の教育目標を設定する。

3　具体目標

(1)目指す児童像

【知力:はげみ合う子】学ぶ意欲の向上
　学ぶ意欲をもって他者と対話し、自分の考えを深める子
【心力:なかよくする子】かかわる力の向上
　自他のよさや可能性を認め合い、互いに支え合う子
【体力:力みなぎる子】へこたれない力の向上
　自己の目標の実現に努め、挑戦したり粘り強く取り組んだりする子

(2)目指す学校像

○地域社会とつながる学校
　「ひと・もの・こと」との繋がりを大切にした「行かせたい・応援したい」学校
○学び合う学校
　主体的に学び合う意欲に満ち、「わかる、できる」が実感できる学校
○明るく健やかな学校
・気持ちのよい挨拶があふれ、笑顔いっぱいの活気ある学校
・校内美化が行き届いた学習環境の整った学校
・子どもの個性が生き、互いを認め合い、大切にする学校
○大人も子どもも行きたくなる学校
・働きがい、学び合いがある学校
・安心、安全な居場所がある学校

(3)目指す教師像

「教師は、子どもにとって最大の環境である」ことを自覚し、率先垂範する教師
～組織は、トップの器以上には育たない～

【教師エージェンシー（よりよい未来の創造に向けた変革を呼び起こす３つの力）の追求】
①自律的に学び続ける力「自らアップデートし、教育に情熱を注ぐ姿」
・ 変化や挑戦を恐れず専門職として学び続け、「教える」から「学びを起こす」授業改善を追求する。
・ 法令を遵守し、高い倫理観と接遇態度をもって、自らを律し行動する。
・ 子どものよさや可能性を信じ、熱意をもって教育活動にあたる。
②新たな課題に対応できる力「変化を捉え、子ども一人ひとりに最適解を求める姿」
・ 子どもを一人の個性として尊重し、その最善の支援（子ども理解）を考え続ける。
・ 子どもや保護者の願いを真摯に受け止め、誠実な対応を通じて強固な信頼関係を構築する。
・ 危機管理意識を常に高くもち、子どもの安心・安全を最優先に守り抜く。
③組織的・協働的に解決する力「チームの力を最大化し、共に高め合う姿」
・ 学校経営目標の具現化に向け、学年・分掌の枠を超えて主体的・創造的に参画する。
・ 経験や年齢を問わず、相手への尊敬と礼節（花見 teachers）を重んじ、互いに切磋琢磨する。
・ 「報告・連絡・相談」を徹底し、組織としてのチーム力を発揮して課題を解決する。

《危機管理意識の向上》
「危機対応のさしすせそ」
さ：最悪の結果を想定して　**し**：親身な対応　**す**：素早く対応　**せ**：責任をもって
そ：組織で対応

4　本校教育の課題

（1）教育課題　　～児童・教員に解決を期待する課題～

○児童一人一人の人権意識の高揚
○自己実現に向けて、つまずいても粘り強くやり遂げる子どもの育成
○教育活動における意思決定の場面、自己決定と遂行、成功体験の保障と発言力の育成
○低学力層の改善を核とした学力向上　　評定1の層5%減(昨年度比)、二極化の回避

（2）経営課題　　～学校組織として解決したい課題～

○学習指導法、学習規律（学び方）の共通理解と徹底
○特別支援学級担任と通常の学級担任の連携（児童実態や指導法の共通理解）の充実
○分掌チーフ・学年主任を中核とした取組の共有（周知徹底）と実践、評価、改善サイクル
○地域を巻き込んだ「ひと・もの・こと」の、積極的かつ柔軟な開拓・調整・活用
○働き方改革を踏まえた取組の軽重づけと**発想の転換**
（行事精選や簡素化においてもできる、子どもの活躍の場づくり）

Ⅱ　令和8年度の重点目標及び経営の重点

1 本年度の重点目標

はげみあい、なかよくし、力みなぎる花見っ子の育成
～わくわく、にこにこ、もりもり花見っ子～

2 重点目標(教育目標)達成のための経営の重点

○学年主任者会（花見小リーダーズ会議）をはじめとする分掌組織（三部会）における重点目標の評価・改善の充実
○すべての子どもの可能性を引き出し、自己肯定感を高める教育活動と指導法の工夫
（ユニバーサルデザインの視点を生かした授業改善）
○子どものレジリエンスを実現する教育課程の編成
○業務の効率化を図り、子どもと向き合う時間の確保と教育の質を高める働き方の定着
○目的を共有し、決めたことが教室の隅々まで実践される組織力の向上

3 重点目標(教育目標)達成のための具体的方策

（1）3部会（知力、心力、体力）の機能化の推進

※　2か月に1回、各部会の目指す児童像に照らした評価と改善を話し合う。
※　各分掌の提案内容の協議と支援を話し合う。

① 知力部・・・学力向上に向けた取組を計画立案と推進。

■はげみ合う子ども：学ぶ意欲をもって、他者と対話し、自分の考えを深める子ども
○人の話をよく聴き、反応する子　　【教師・児童の自己評価3．5】
○活発に話し合い、協働で考えを深める子　　【教師・児童の自己評価3．5】
○進んで読書に親しむ子　　【教師・児童の自己評価3．2】

【具体的な取組】
○花見っ子スタンダードの充実と徹底・・・授業時の構え（身、物、心）の徹底

○主体的・対話的で深い学びを支援する授業改善

※自己調整力を高める視点からの単元構成

※学習意欲を喚起する「問い」のもたせ方の工夫

※「対話的」な学び…子ども同士で尋ね合ったり折り合いをつけたりする交流の在り方

※「振り返り」による学びの意味付け

【振り返りの視点の例】
- 「この授業で何を学んだか」→感想にとどまらず変化に気付く
- 「今日の授業で自分がこれから生かしたいことは何か」
- 「解決しなかったこと（もっと考えたいこと）は何か」
- 影響を受けた友だちの考え

○少人数指導・習熟度別学習等による、基礎的な知識・技能の粘り強い指導

○めあてやまとめなど、ノートの書き方の指導の徹底

○ICT 活用の場面や方法の多様化

○朝の活動や読書ボランティア、図書委員会等による読書活動の推進

② 心力部・・・豊かな心及び人権教育の取組を計画立案と推進。

■なかよくする子ども：自他のよさや可能性を認め合い、互いに支え合う子

○時と場に応じた気持ちのよい挨拶ができる子	【教師・児童の自己評価３．５】
○相手を大切にする言葉遣いができる子	【教師・児童の自己評価３．５】
○自他のよさや頑張りに気付くことができる子	【教師・児童の自己評価３．５】

【具体的な取組】

○代表委員会を中心とした挨拶運動の取組の推進

・時と場に応じた挨拶、「相手の目を見て」「自分から先に」「立ち止まって」等レベルアップを図る。

○ほめ言葉のシャワーの取組

・大人から子どもへ、子どもから子どもへと広げていくことによって、子どもたちの自尊感情を一層育み、非認知能力を高める。教師は、子ども理解に基づき、適切なほめ言葉を増やし、よいところを見つけ称賛する見方や考え方を示す。

○人権教育と道徳教育

- 価値理解をもとにした納得解を見出す**「考え議論する道徳科」への授業改善**
- 排育学習（２年）し尿処理学習（４年）歴史学習（６年）は、人権教育として一般研に位置付ける。
- 年に１回人権参観を実施し、児童の人権意識・人権感覚の高揚を図る。
- 被爆くすの木を活用した**平和教育の充実と推進。（６年生の被爆体験者による講話を実施）**
- 人権教育の視点に立ついじめ防止基本方針に基づいたいじめ防止対策委員会の充実

○学級活動の充実

- 自主的・自発的な力を伸ばす年間 12～15 時間の学級活動(1)の実施と係・集会活動の充実
- 学級会の基本的な進め方の共通理解
- **支持的風土の醸成を意識した学級会の取組**
- 話し合いの決まりを明確にし、どの子どもも発言できる学級環境づくりに努める。
- 子どもの学級の一員として「参加した」という実感を味わう場と捉え、支持的風土醸成の核となるよう取組を進める。

○いじめ、不登校、虐待の早期発見と確実な対応及び教育相談の充実

- 生活アンケート、生活多面調査等の確実な実施と、対応１００％
- ＳＳＷ、ＳＣ、民生委員、教育支援センターなど関係機関との積極的な相談及び連携の推進
- 「こころとからだの天気」の有効活用（週に１回以上、長期休業明け１週間は毎日）

③ **体力部・・・たくましい心と体づくりに向けた取組の計画立案と推進。**

■力みなぎる子ども：自己の目標の実現に努め、挑戦したり粘り強く取り組んだりする子
○目標に向かって、取り組み続ける子　【教師・児童の自己評価３．５】
○黙々と時間いっぱい体を動かし掃除をする子　【教師・児童の自己評価３．５】
○けがや事故などから自分を守る行動ができる子　【教師・児童の自己評価３．５】

【具体的な取組】

○立腰姿勢の徹底（姿勢タイムの継続）
○体育科の授業において、２０分以上の運動量確保と時間走の位置付け
○運動の日常化に向けた取組（体育委員会を中心とした運動に親しむ取組の推進）
○体力アップシートの活用やスポコン広場の促進
○黙働掃除の仕方の徹底（週２回だからこそ）
○自分の命は自分で守ることや、みんなの命を守るための安全行動の徹底
○熱中症対策および感染症対策等の徹底
○アレルギー対応の徹底

（2）校内研究の充実

①主題研究

令和5、6、7年度の県重点課題の研究の成果を生かしたインクルーシブ教育の継続

- 支援連絡会のさらなる充実
- ユニバーサルデザインの視点を生かした授業づくり（主に国語科、算数科）
- 支持的風土の醸成をめざした仲間づくり

②一般研修：教科の本質をとらえた指導力向上を目指す研修

○ 教科指導法等の研修
- 放課後の時間を生かした「学びたい」「教えたい」を実現する主体的な研修の実施
- 自薦、他薦によるそれぞれの特徴教科や得意分野を生かした 0JT 研修

○ 互見授業の積極的な実施
- 教師だけでなく、子ども同士が学ぶ姿を互いに見合う場の推奨

○ 古賀市教育課題（低学年排育教育、４年し尿処理学習、６年歴史学習）の授業公開
○ 危機管理研修

（3）特別支援教育委員会による配慮を要する子等のケース会議や情報共有

○交流学級と特別支援学級、通級指導教室における指導の連携を図る校内委員会の充実
○子どもや保護者のニーズ、合理的配慮を反映させた個別の指導計画、教育支援計画に基づくきめ細やかな指導
○配慮を要する子への支援の充実を図るケース会議と、関係機関との連携による組織的な対応の実施

Ⅲ 重点目標達成のための組織運営、研修、家庭・地域との連携

（1） 組織運営の工夫

○子どものレジリエンスを実現する場づくりと環境づくりに向けて

・安心・安全な場・・・一人ひとりの違いが認められ、尊重されていること
　試行錯誤ができる、失敗にも価値がある（失敗から学ぶことができる）
・ほめて鍛える場・・・ほめて意欲を喚起し、少し頑張ればできる目標を設定し、その努力する過程を認めながら、成功体験を積んでいく。

① 児童の意欲を喚起する環境構成の工夫や、教室等の整理整頓（美しい環境づくり）

・学びや学級づくりの足跡や学級活動コーナーの充実、温かなコメントのある作品掲示
・資料センターとしての図書館の環境整備の充実
・元気に外で遊ぶことのできる安全な活動の場の整備および施設管理

② 教師エージェンシーの支援

・３つの力（自律・対応・協働）を組織として引き出すための**対話が生まれる校内研修の充実**
・**「花見 teacher s」の文化醸成：よさを認め合い尊重しつつ切磋琢磨する職場環境づくり**

③ 教育の深化を図る外部との連携（コミュニティ・スクールの充実）

・学校運営協議会との連携と活用　→子どもたちとの協働的な活動の創造
（芝管理、花見っ子ガーデン等の体験学習や行事等の協力体制の仕組みづくり）
・地域人材バンクの積極的な活用
　→保護者および地域の方による学習支援（○付けボランティア）、およびＧＴを計画的に活用する「地域連携コーディネーター」との情報共有

④ 教育効果を高める放課後の時間の有効活用促進等による働き方改革の推進

・業務改善の視点をもち、放課後の時間を意図的・計画的に有効に活用する。

⑤ 専科および教科担任制等による負担軽減

・専科の活用による持ちコマ数の平均化（全学年およそ週２３コマ）
　令和８年度の教科担任制加配（体育、理科）
・各学年教科担任制の積極的な実施（開かれた学年・学級づくり）

（2）地域連携活動の推進

○ 地域連携の視点による教育課程の確認、見直し

各学年の年間指導計画（月別概要）を地域連携の視点から見直し、生活科・総合・社会科等での地域資源活用を明確化する。

○ ふるさと学習および防災学習の継続・深化

松原学習（４、６年）、防災学習（３年）等地域をフィールドにした系統的な学びにより、郷土愛と防災・減災の資質・能力を育む。

○ 協働的な学びの創出

地域ボランティアやGT との交流を通じ、多様な他者と協働する力を養う。（１年生による感謝の会）

（3）教師力(授業力)の向上のための各種研修

○ 外部研修の充実

・各種研究会、県教育センター講座等の校外研修等へ積極的な参加を奨励（但し校内調整必要）
・若年研修最終年(3 年目)は「糟屋地区教育論文」、次年は「県教育論文」執筆の奨励。
・教科等研究会や教育懇談会等への主体的な参加による自己研鑽の推奨

Ⅳ 本年度の経営構想図

教育目標
地域を愛し、主体的・協働的に学び、心豊かでたくましい子どもの育成

めざす学校像

○地域社会とつながる学校
・地域の「ひと・もの・こと」との繋がりを大切にした「行かせたい・応援したい」学校
○学び合う学校
・主体的に学び合う意欲に満ち、「わかる、できる」が実感できる学校
○明るく健やかな学校
・気持ちのよい挨拶があふれ、笑顔いっぱいの活気ある学校
・校内美化が行き届いた学習環境の整った学校
・子どもの個性が生き、互いを認め合い、大切にする学校
○大人も子どもも行きたくなる学校
・働きがい、やりがいがある学校
・安心、安全で居場所がある学校

目指す子ども像

【知力：はげみ合う子】学ぶ意欲の向上
学ぶ意欲をもって他者と対話し、自分の考えを深める子
○人の話をよく聴き、反応する子
○活発に話し合い、協働で考えを深める子
○進んで読書に親しむ子
【心力：なかよくする子】かかわる力の向上
自他のよさや可能性を認め合い、互いに支え合う子
○時と場に応じた気持ちのよい挨拶ができる子
○相手を大切にする言葉遣いができる子
○自他のよさや頑張りに気付くことができる子
【体力：力みなぎる子】へこたれない力の向上
自己の目標の実現に努め、挑戦したり粘り強く取り組んだりする子
○目標に向かって、取り組み続ける子
○黙々と時間いっぱい体を動かし掃除をする子
○けがや事故などから自分を守る行動ができる子

目指す教師像

教師エージェンシー（よりよい未来の創造に向けた変革を呼び起こす3つの力）の追求
①自律的学び続ける教力「自らアップデートし、教育に情熱を注ぐ姿」
・子どものよさや可能性を信じ、熱意をもって教育活動にあたる。
・変化や挑戦を恐れず学び続け、授業改善を追求する。
・法令を遵守し、接遇態度をもって行動できる教師
②新たな課題に対応できる力「変化を捉え個の最適解を求める姿」
・子ども理解に努め、最善の支援は何か考え続ける教師
・危機管理意識を高め、子どもの安心・安全に努める教師
③組織的・協働的に解決する力「チームの力を最大化し高め合う姿」
・学校の教育目標の具現化のために、協働して学年学級経営・校務分掌に参画できる教師
・経験値や年齢等によらず、相手への尊敬の念と礼節を大事にしながら切磋琢磨できる教師
・「報告・連絡・相談」を徹底し、チーム力を発揮する。

教育課題

○児童一人一人の人権意識の高揚
○自己実現に向けて、つまずいても粘り強くやり遂げる子どもの育成
○教育活動における意思決定の場面、自己決定と遂行、成功体験の保障と発言力の育成
○低学力層の改善を核とした学力向上
（評定１の層５％減（昨年度比）、二極化の回避）

経営課題

○学習指導法、学習規律（学び方）の共通理解と徹底
○特別支援学級担任と通常の学級担任の連携（児童実態や指導法の共通理解）の充実
○分掌チーフ・学年主任を中核とした取組の共有（周知徹底）と実践、評価、改善サイクル
○地域を巻き込んだ「ひと・もの・こと」の、積極的かつ柔軟な開拓・調整・活用
○働き方改革を踏まえた取組の軽重づけと**発想の転換**
（行事精選や簡素化においても、できる子どもの活躍の場づくり）

重点目標

○はげみ合い、なかよくし、力みなぎる花見っ子の育成
・自己肯定感を高める基礎的な学力の育成、自己の考えの表出や交流のある協働的な授業づくり・環境づくり
・いじめと不登校の改善、学級の支持的風土づくり
・体力向上も含めた、あきらめずに努力する子どもの育成

経営の重点

○主題研究の日常化
○三部会の機能化の促進
○支持的風土醸成にかかわる生徒指導の充実
○日常的な運動習慣及び体育科の指導の充実
○組織の活性化と教師の指導力の向上（チーム力＋個人力の向上）

校務運営計画へ